

# 会報

第110号  
平成27年2月26日  
新潟県特別支援教育研究会事務局  
新潟市中央区白山浦1-207-3  
新潟市立鏡淵小学校内  
Tel 025 (265) 4111  
Fax 025 (265) 4112  
発行: 文久堂

## 特別支援教育の

## さらなる充実を



新潟県特別支援教育研究会  
副会長 熊木 泰広

「自立と社会参加を目指した途切れない支援の在り方」(上越地区)、「人とのかわりを広げ豊かに生きる力をはぐくもう」(中越地区)、「多様な学びの場で、共に学ぶ特別支援教育の充実を目指して」(下越地区)、これは、今年度行われました各地区での研究大会の大会主題です。今年度の四月、新潟県及び新潟県教育委員会から、「個を伸ばす教育」を基本理念とし、「ふるさとへの愛着と誇りを胸に、粘り強く挑戦し未来を切り拓く、たくましいひとづくり」を今後目指すひとづくりの姿とした「新潟県教育振興基本計画」が示されました。そこに示されています基本方針の中に「学ぶ意欲を高めた確かな学力等を育成する教育の推進」が挙げられ、その六番目に「一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育の推進」があります。その目指すも

のとして「障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、学習上または生活上の困難を克服し、自立と社会参加を一層進めるようにするために、適切な指導や必要な支援を行います。」とあります。そのためには、全ての教職員が特別支援教育についての理解を深めるとともに、指導力の向上に努めることが不可欠です。

また、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会形成の基礎である特別支援教育は、特別支援学級に在籍している児童生徒、通常学級に在籍している特別な支援を要する児童生徒への教育にとどまらず、全ての児童生徒にとって有効なものと言えます。特別支援教育の理念を学校経営の中核に据え教育活動を推進している小・中学校もあります。全県で特別支援教育担当教員が千三百人を超える中、通常学級担任も発達障害等に対する指導力の向上が県教育委員会の課題の一つでもあります。

このことから、今年度の各地区での研究大会は、その理念、目的に沿ったものと言えます。子どもたちの成長にその成果が現れることを期待します。

平成二十八年度には、関東甲信越地区特別支援教育研究協議会新潟大会が朱鷺メッセを主会場として開催されます。

今年度の当研究会の主たる事業はほぼ終了しました。それぞれの研究会で得たものや、来年度の各地区での研究会、各研究部の研究会等により実りあるものにし、その成果を関東甲信越地区特別支援教育研究協議会新潟大会に生かし、子どもたちの成長に結びつけるかが、今後の私たちの大きな課題であることを強く意識していきたいものです。

## 26年度 主な事業報告

### 理事会・評議員会

- 第一回理事会・評議員会 (5月30日)
- 第二回理事会 (2月5日)

### 研究大会

- 上越地区・妙高大会
- (8月19日) 妙高市文化ホール他 約510名参加
- 中越地区・長岡東大会
- (11月11日) 中之島中央小学校 約280名参加
- 下越地区・村上・岩船大会
- (11月28日) 村上市教育情報センター他 約250名参加

### 研究部研修会

- 知的障害部
- (8月4日) 白根学習館 250名参加
- 自閉症・情緒障害部
- (7月30日) 中之島文化センター 385名参加
- 言語・難聴部
- (7月28日) 長岡市教育センター 95名参加
- 肢体不自由・病弱・身体虚弱部
- (7月29日) 見附市立今町小学校 43名参加

### 全特連関係

・ 関プロ千葉大会

提案者2名、司会者2名派遣

(8月8日) 千葉市民会館他

・ 全国大会宮崎大会 会長派遣(10月30・31日)

### 平成28年度関プロ新潟大会関係

- ・ 第1回関プロ実行委員会 (12月11日)
- ・ 第2回関プロ実行委員会 (2月5日)

### 会報

- ・ 会報109号発行 (7月)
- ・ 会報110号発行 (2月)

# 平成26年度 各地区大会報告

## 上越地区・妙高大会

「自立と社会参加を目指した途切れのない支援の在り方」を大会主題に、分科会と全体会を行いました。幼、保、小、中、特別支援学校、高等学校の教職員や保護者、地域住民、福祉関係者など五百名を超える参加がありました。大勢の参加者が語り合えるように分科会運営を工夫し、六、七人の小グループ協議の時間を設けました。

六つの各分科会では、「つなぐ」をキーワードに、まず、話題提供者による園・校内外の連携にかかわる実践発表が行われました。質疑応答の後、小グループ協議に入り、発表内容に関することや実践上の悩みや工夫などについて活発な話し合いが行われました。その後、分科会指導者から、国や行政の動き、参考事例などをご指導いただきました。

続く全体会の全体指導では、県教育庁義務教育課特別支援教育推進室指導主事の長谷川絃様から、「新潟県における特別支援教育の現状と課題」について、「整備と支援」をキーワードにご指導いただきました。

その後、東京都野市立日野第三小学校長の京極澄子様から、「授業のユニバーサルデザイン化」という演題でのご講演をいただきました。子どもたちのつまずきや困り感に対応した「ひのスタンダード」



について、豊富な事例を通して紹介されました。その中で、「教科の目標を達成するために、ユニバーサルデザインの視点での授業の工夫を」と強調され、ややもすると方法論に傾きがちな中、「授業のユニバーサルデザイン化」の根幹を考へることの重要性を示唆いただきました。当地区でも、「授業のユニバーサルデザイン化」に取り組みむ学校が増えていますが、今後の実践の参考になるものでした。

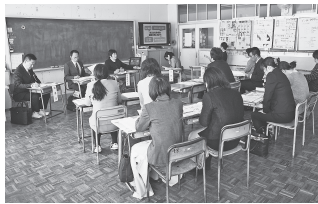
(事務局 妙高市立新井中央小学校)

## 中越地区・長岡東大会

晩秋の日差しが弾ける青空の下、「あの子の成長を支えるために学びたい。」とする三〇〇名に迫る方々の参加を得ての開催となりました。

分科会内容を抜本的に見直し、子どもの成長に沿って、幼保小の連携から就労支援に至るまでの取組をつないでいくものとして設定しました。①幼保小連携②授業のユニバーサルデザイン化③インクルーシブ教育システム④中学校進路指導⑤通級指導⑥高等部進路指導⑦総合支援室による移行支援。

いずれの分科会でも心血を注いだ第一級の提案がなされます。それに対して、参加者の日頃の取組に基づく率直な意見交換が活発に展開します。そして、識見に裏打ちされた指導による意味付け、方向付けが行われました。



参加者アンケートでは、分科会に対する肯定的な評定が九七％(四段階最上位「よい」は五七％)でした。

全体会では、義務教育課内山徹指導主事に全体指導をお願いし、「本県の特別支援教育の現状と課題」を説明していただきました。参加者それぞれが、自分の日常実践を県の課題に位置付けて考えることができるとお話をしました。

そして、拉致被害者である新潟産業大学准教授蓮池薫氏の講演がありました。演題は「夢と絆」翻弄された反省を振り返って。苛酷な経験をとおして、困難を希望に置き換えて生きることの素晴らしさを語る氏の言葉に、聴衆は一体感をもつて聴き入りました。困難な状況を乗り越えるヒントは、その子の具体的な行動にあります。それを共有して、途切れない支援と学びの連続性を確保しよう、意を強くする大会でした。

(事務局 長岡市立中之島中央小学校)

## 下越地区・村上・関川大会

大会主題「多様な学びの場で、共に学ぶ特別支援教育の充実を目指して」の下、全体会(全体指導)と分科会を行いました。地区内外から小・中・特別支援学校の教職員、保護者、各種関係機関等から二百五十名を超える参加がありました。

全体指導では県義務教育課特別支援教育推進室指導主事、山田澄人様から「本県の





特別支援教育の現状と課題」をテーマに、インクルーシブ教育システム構築について具体的な資料を基にご講演いただきました。その後の分科会につながる示唆に富んだご指導となりました。

分科会は「校内支援体制づくり」「小学校特別支援学級での支援」「通常学級での支援」「通級指導教室での支援」「家庭・地域での支援」の六つで構成し、協議題を絞って話し合いました。

今大会の特色は、各分科会の発表者を一名に絞り、参会者による協議の時間を確保するとともに、分科会単位で指導者のご指導のもと、分科会関係者による打合せを二度行い、協議題や協議の進め方について検討を重ねたことです。

当日は、各分科会とも活発な協議が行われ、さらに、指導者の方からの確なご指導を頂き充実したものとなりました。

アンケートでは、教職員の方からは「日頃の困りごとの話題が出せ、多くの学校の方々から意見が聞けて参考になりました。」や、保護者の方からは「将来的な見通しと今からできること等を考えることができました。」など九十%を超える肯定的な評価をいただきました。

指導者の的を射たご指導と参会者の主体的な参加により、今後の特別支援教育の充実に向けた確かな一歩を踏み出すことができました大会となりました。

(事務局 新発田市立本丸中学校)



全特連関プロ・千葉大会 (県内派遣：提案者2名：司会者2名：本部役員4名)

提案者

- 「通常の学級に在籍する児童への支援」～居心地のよい環境づくりを中心に～  
南魚沼市立北辰小学校 笹岡るり子 教諭
- 「学級集団として取り組む国語科の指導」～劇遊びを通して関わり合う姿をつくる～  
長岡市立寺泊小学校 藤塚 仁志 教諭

関プロ・千葉大会に参加して

長岡市立越路小学校

藤塚 仁志

平成26年度関プロ千葉大会に参加させていただきました。第10分科会「教科の指導(国語、算数・数学)」は参加人数が多く、先生方のニーズが高いことを感じさせられました。

特別支援学級における教科指導は、学年や教育課程の違いから、個別のプリント学習になりがちです。集団の中でどのようか課題としてきました。そこで、全員が参加でき、なおかつ国語的な力を身に付けられるよう「劇遊び」を単元として組織しました。「劇遊び」というと、生活単元学習的な内容になりがちです。しかし分科会の中では、キャリア教育の視点から、役割演技の大切さの話題がありました。また、中学校の英語教育の視点から、劇遊びの中で英語指導の話題がありました。自分の知見を広げることができました。

個々の学力を伸ばすためにも、個別の学習は必要です。しかし進学・就労を考え、集団の中でどのように自分の力を発揮しているのか、集団にどのようにアプローチしているのかという方略を身に付けられるような教科指導を考えていかなければならないと改めて感じました。

関プロ・千葉大会に参加して

南魚沼市立北辰小学校

笹岡るり子

8月8日、千葉市で開催された関東甲信越地区特別支援教育研究協議会に参加してきました。当日、全国からたくさんの方々が集まり、会場は熱気に包まれていました。

午前中は、竹田契一先生のご講演に引き込まれ午後はいよいよ分科会です。私は「通常学級における特別支援・授業改善(小学校)」分科会で、提案発表をさせていただきました。通級担当の立場からの提案で、参会者のニーズに合うのか不安な気持ちもありましたが、時々頷きながら聴いてくださる皆さんの顔を見ているうち、徐々に緊張も解けて、無事発表することができました。

司会の南魚沼市立塩沢小学校堀口生雄先生の巧みなリードのお陰で、質問や実践紹介のやり取りをするうち、あつという間に終了時刻になりました。校内の支援体制や、具体的な支援方法、保護者への対応など抱える悩みは皆同じであること、目の前の子どものためにがんばっている仲間がたくさんいることを感じ、力が湧いてくる思いがしました。

千葉大会の経験で得たものを、今後の子どもたちへの支援に生かしていきます。貴重な機会を与えていただき、ありがとうございました。

全特連報告

祝全日本特別支援教育研究連盟功労者表彰

毛利 隆 二様

(前会長・前新潟市立鏡淵小学校長)

長年にわたり当県の特別支援教育の発展に貢献され全国大会で表彰されました。

# 26年度各研修部の研修の成果

## 知的障害部

「天使がこの世に降り立てば、ダウン症の娘と共に生きて」の演題で、現在大活躍されている書家の金澤翔子さんのお母様である、書家の金澤泰子様よりご講演いただいた。ダウン症として生まれた翔子さんを育てる中での悩みや葛藤、純粹さを物語るエピソードや子育ての喜びもお話しくださいました。また、二十歳で個展を開く夢を叶えたこと、精力的に全国で個展や席上揮毫、講演会を開催していること、先に旅立つ親として翔子さんのためにできることなど、一時間ほどお話くださいました。後半は、同行した翔子さんが大好きなマイケル・ジャクソンのムーンウォークとダンスを披露し、拍手喝采だった。二百五十名の参加者からの協力は、謝礼の一部とさせていただきます。

## 言語・難聴部

九州大学病院耳鼻咽喉科医師で、吃音当事者でもいらつしやる菊池良和様より、「吃音支援の在り方」吃音ドクターから学ぶ『吃音』の正しい最新知識と対応」の演題で、ご講演をいただいた。

その中で、吃音への間違った考え方を払拭し、科学的な根拠を知ることや将来起こり得る困り感に対する予防策を考えることが大切であり、そのためには、学校での吃音のからかい（真似・笑い）を止めさせ、本人は、ソシヤルスキルを習得し自分でカミングアウトできると吃音は落ち着くという、新しい考え方を教えていただいた。

今年度は、中越地区開催で、会員、保護者、療育担当者も参加し、ご講演・質疑応答と有意義な研修内容であった。

## 自閉症・情緒障害部

文教大学教育学部学校教育課程教授で小児科専門医の成田奈緒子様より「医学・脳科学から「キレる子」「我慢できない子」等を考える」をテーマにご講演いただいた。

睡眠等生活習慣を整えることによりセロトニン神経が鍛えられ、子どもの攻撃性の裏にある不安の解消が図られることを教えていただいた。また、成田先生が行っている親支援事業から、子どもや保護者との関わりの中で「大丈夫、大丈夫」と声がけをするなど「ハッピーサイクル」を意識した支援が大切であることを学ぶことができた。

教師として問題行動の背景にあるものを十分に把握し、子どもの可能性を信じて指導することの重要性を再確認することができた有意義な研修となった。

## 肢体不自由・病弱・身体虚弱部

第一部では、二〇一四年冬期パラリンピック・ソチ大会のノルディックスキー日本代表選手である出来島桃子様より講演をしていただいた。大会で使用したスキーや練習の映像などをたくさん見せていただき、実感をもって聞くことができた。自分のハンディをプラスに受け止め、スキートの練習に前向きに取り組む姿に、出来島選手の偉大さを感じる講演だった。「その時にできることを一生懸命やる。」という生き方に感動した、と参加者からの感想も多く寄せられた。

第二部では、担当者情報交換を行った。各校の課題や工夫を話し合うことができて大変有意義な研修会となった。

## 県特支研のHPをご覧ください

URL: <http://www.niigata-inet.or.jp/kentokusiken/>  
 メールアドレス: [tokusi@niigata-inet.or.jp](mailto:tokusi@niigata-inet.or.jp)

第48回 全日本特別支援教育研究連盟  
 関東甲信越地区特別支援教育研究協議会  
 千葉大会



平成26年8月8日(金)に第48回全日本特別支援教育研究連盟関東甲信越地区特別支援教育研究協議会千葉大会が開催されました。大会テーマは「取組・時代の転換を促す1人1人が豊かに生きるために〜」です。会場は、千葉市民会館、千葉県教育会館、ホテルポートプラザら、京葉銀行文化プラザの4つの施設を使用して行われました。

大会に参りでしたが、関東甲信越地区から9900名の教育関係者が集まりました。始めに、千葉市民会館大ホールを会場に全代会開幕式が行われました。開会式では、ご挨拶や前日開催地表彰、大会引継ぎ等が行われました。

全特連の関プロ千葉大会や各地区大会、研究部研修会の様子がみられます

平成26年度 新潟県特別支援教育研究会  
 地区大会の紹介

- 1 上越地区・・・妙高大会(特支研事務局報告)
  - 日時 平成26年8月19日(火)
  - 会場 妙高市文化ホール 他
  - 事務局 妙高市立新井中央小学校
  - 大会の概要(PDF)
- 2 中越大会・・・長岡東大会(特支研事務局報告)
  - 日時 平成26年11月11日(火)
  - 会場 長岡市立中之島中央小学校
  - 事務局 長岡市立中之島中央小学校
  - 大会の概要(PDF)
- 3 下越大会・・・村上・岩船大会(特支研事務局報告)
  - 日時 平成26年11月28日(金)
  - 会場 村上市教育情報センター 他
  - 事務局 関川村立関川中学校
  - 大会の概要(PDF)

新潟県特別支援教育研究会 平成26年度 各研究部の取組

平成26年度の各研究部の活動計画をお知らせします。参加ご希望の方は、各事務局までお問い合わせください。

- ① 知的障害部 (事務局:新潟市立新井中央小学校)
  - 1 研修会名称 新潟県特別支援教育研究会 知的障害部研修会  
くらしの様子1ををクリック
  - 2 研修会主題 「根拠の自立、社会参加に向けて」
  - 3 日時 平成26年9月4日(月) 13:00~15:40  
会場 日野学園アスレチックホール
  - 4 日程 ・開会13:00~13:30 ・講演13:30~15:30 閉会15:30~15:40  
・講演 演題 「天使がこの世に降り立てば〜ダウン症の娘と共に生きて〜」  
講師 金澤 泰子 様 (書家)
- ② 自閉症・情緒障害部 (事務局:長岡市立平手小学校)
  - 1 研修会名称 新潟県特別支援教育研究会 自閉症・情緒障害部研修会  
くらしの様子1を下をクリック
  - 2 研修会主題 「「キレる子」「我慢できない子」を考える」

編集後記  
 県特支研だより No.「110号」をお届けいたしました。お忙しい中、多くの皆様から、玉稿を賜りました。感謝申し上げます。本号が新潟県の特支研教育の一助となることを願っております。  
 (事務局)